

単元名 4 人間のきずな 一字のない葉書

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 表現に着目して人柄や心情を読み取り、それを生かして他の随筆を読むことができる。
 (2) 前半部分と後半部分の人柄や心情の描かれ方を比較し、表現の効果について考えることができる。
 (3) 進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとする。

標準的な展開例

11210202_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 描写を通して、人物の人柄や心情を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 随筆について確認する。 ○ 題名である「字のない葉書」とは、どのような葉書なのかを想像する。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 <p>★本文の表現から、登場人物の人柄や心情を捉えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全文を通読する。 ○ 作品の構成について知る。 ○ 父親の行動や様子を表している描写部分をノートに整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ①親元を離れる4、5日前まで ②女学校1年で、親元を離れたとき ③下の妹が疎開に行くまで ④下の妹が疎開から帰ってきた日 <p>2 言動や様子を描いた表現に着目し、登場人物の人柄や心情を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題を知る。 <p>★妹に対する家族の心情を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 疎開をしている妹が置かれた状況を捉える。 ○ 疎開中の妹の葉書を見た家族の思いを考える。 ○ 心情の描き方について知る。 <p>3 父親に対する筆者の思いを読み取り、その思いに対する自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題を知る。 <p>★父親に対する筆者の思いを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 筆者が父親をどのように見ていたのかが分かる表現を抜き出し、まとめる。 ○ 筆者の父親への思いをまとめる。 ○ 筆者の父親への思いについて共感できることや、共感できないことを発表する。 ○ 学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 随筆と小説の違いについて、例を挙げて確認する。 ・ 題名の意外性を生かし、生徒の興味や関心を引きつけたい。 ・ 筆者の向田邦子について、その生涯や主な作品などに触れ、説明しておくとうい。 ・ 「目標」(p.106)を確認し、父親に着目して作品を読んでいくことを説明して通読する。 ・ 国語指導CDを活用してもよい。 ・ 2部構成で「手紙」と「葉書」の思い出が描かれていることを確認する。 ・ 4つの場面に分けて描写を整理させる。 【評】父親の行動や様子を表す描写から、父親の人柄を捉える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 前時の学習内容を踏まえ、本時は家族の心情を考えることを確認する。 ・ 妹から送られてくる葉書から考えられる状況を理解させる。 ・ 妹の疎開中、疎開から戻ってきたときのそれぞれの状況で考えさせる。 【評】妹に対する家族の心情を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 「学習の窓」(p.110)を読み、前半と後半それぞれの心情の描かれ方の特徴を確認する。 ・ 第1時でまとめた父親の行動や様子を振り返る。 ・ 出させたい表現は、①威厳と愛情にあふれた非の打ちどころのない父親、②暴君ではあったが、反面照れ性でもあった父は……、③日ごろ気恥ずかしくて演じられない父親を……④父が、大人の男が声を立てて泣くのを初めて見た。 【評】父親に関する描写をまとめる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 自分の言葉でまとめさせる。 ・ 家族のきずなに対する筆者の考え方、自分の考え、学級の生徒の考えを比較させ、考えを深めたり広げたりさせたい。 ・ 「学習を振り返る」(p.111)を読み、学習を振り返らせる。

【 備 考 】

文学的な文章では、言動や心理の描写、情景の描写などに、作者のものの見方や感じ方などが表れている。また、説明的な文章では、論の中心的部分だけでなく、例示などがもつ効果が読み手を強く引きつける場合も少なくない。この単元では、こうした多用な描写や例示のあり方に注目しながら、文章を読み深めることが目的となっている。また、描写や例示などは、書き手のものの見方や感じ方を具体的に伝え、読み手を楽しませる働きがある。

敬語の学習は、用語の暗記や分類ができるようになることが目的ではなく、社会生活の中で円滑なコミュニケーションを図るために適切に使用できることが求められる。そこで、学習の最初には敬語を使うべき場面はどこか、敬語を使うとどのような効果があるのかについて、実生活を振り返りながら考えさせ、今後の生活に生かすようにさせたい。

また、「盆土産」「字のない葉書」では、家族のつながりやきずなが題材となっている。